



平成 30 年 7 月 11 日(水)

定期総会に行ってきました 編

(財)国土計画協会(旧・高速道路交流推進財団)の支援を受けた団体\*からなる国土計画協会地域連携推進団体協議会では、年 1 回、新規会員の紹介として支援決定団体による事業紹介及び交流会を開催しています。今回は 20 団体の参加がありました。会の世話人には 2 月に開催したのしろ市民まちづくりフォーラムにおいていただいた宇都宮一成さんが所属される NPO 法人シクロツーリズムしまなみのお名前もあります。

昨年は北海道帯広市での開催でしたので、2 年ぶりとなる会場最寄の半蔵門駅はオリンピック効果でしょうか、見違えるほど綺麗になっていました。

今年度から「高速道路利用・観光・地域連携推進プラン」に取り組んでいる 3 団体は以下の通りです。

①多賀城・七ヶ浜商工会(宮城県)。東日本大震災による津波被害を受けた地域が「うみの駅」を観光拠点とした観光づくりを提案しています。仙台市民ばかりでなく、山形県や福島県内陸部からの高速道路利用者を誘致し、様々な海の魅力を感じてもらい、リピーターを増やすべく、モニターツアーを実施しています。高速道路利用者限定の施設利用特典は能代でも考えていきたいプランです。

②にいがた庭園街道ネットワーク(新潟県)。4 年前に北海道ガーデン街道の発表を聞いて、県北部に多数残る国指定の名勝庭園と伝統建築は大きな観光資源となると気づかれたそうです。それらと棚田や山々が連なる風景、温泉をつなぎ「日本の原風景の街道」として地域活性化を目指しています。既にパンフレットも出来上がっています。事業展開が早いのは村上市でのノウハウがあったからでしょうか。

③笠岡商工会議所(岡山県)。笠岡市は東西を日本有数の観光地である倉敷市と広島県尾道市に挟まれ、高速道路を利用すればどちらへも 1 時間程度の距離にあります。提案エリア・備中備後にはご当地ラーメンやうどんが点在することから、ご当地グルメ活動と連携しながら回遊性の向上と交流人口の増加を目指しています。県をまたいだ取り組みは秋田ではあまりありませんので、今後の成果に注目です。

こうした各地最先端の取り組みの工夫の集積が、共有の知恵となっていけば良いなと強く感じました。

文：渡辺 千明

\* のしろ白神 NW は平成 22 年に「観光資源活用トータルプラン」で優秀賞を受賞、3 年間で 1 千万円の支援をいただきました。

一般財団法人国土計画協会の各プランのページ：

<http://www.kok.or.jp/project/highwayplan.html>



各団体の発表内容や選考委員のお話を聞いていると、地域の資源や事情は違っても、市民・役所・事業者といった関係者が本気でコラボレーションを続けるかどうかしか、成功の秘訣はないように感じます。



町家にお住まいの方々が中心となって観光客ゼロから年間 30 万人が訪れるまちに変えた村上市の取り組み。その蓄積が、今回も多様な団体との連携に生かされていました。



最後に立教大学名誉教授・溝尾先生のまちづくりに関するご講演がありました。毎回のことですが、溝尾先生や選考委員の先生方のご質問やご指摘は当該団体以外にもあてはまる事が多く、大変勉強になります。



今回も名刺交換や談笑に忙しい交流会でした。東北「道の駅」連絡会の鑑さんとお会いし、秋田に戻ったら風景街道と道の駅コラボを考えましようかと約束しました。楽しみです！